



▲親子でイベントに参加。一緒に何かできるのが楽しい。



▲家族で力を出し切る運動会! 秋に開催。



▲里親同士の交流も和やかなクリスマス会

クローズアップ天王寺

うそのない関係だから ほんとうの親子になる

里親ってなに?

「里親制度」とは、病気や貧困などさまざまな事情により親が養育できなくなった子どもを、愛情と理解をもって育てたいと願う家庭で養育する仕組みです。大阪市では、平成27年12月末現在で1511人の子どもが里親家庭や、里親経験者などが運営するファミリーホームで暮らしています。

親が育てられない子どもの多くは、乳児院や児童養護施設で暮らしています。しかし、施設だけでは、あたりまえの家庭生活や特定の大人から愛される経験が求まられています。里親が子どもに与えた経験は、その子が自立する時、大きな力になるでしょう。

大阪市の里親制度には、親が養育できる見込みのない子どもを養子縁組して育てる「養子縁組里親」、親が養育

できるようになるまで一定期間育てる「養育里親」のほか、週末や長期休暇に家庭で預かる「週末里親」などの種類があります。

「うそのない親子関係を築くために」里親家庭は、実の親子と何ら変わらない生活をしています。ただ一つ違うのは、別に産みの親がいると告げる「真実告知」があることです。なんと真実告知は、就学前でも大丈夫とのこと。

大阪府から委託を受けている公益社団法人家庭養護促進協会では、主に養子縁組のあつせんや「週末里親」探

「3〜4歳児なら『パパとママは子どもが欲しかった。神様が教えてくれた赤ちゃんの国で一番かわいい、〇〇ちゃんとお会ったのよ』という具合に、自分たちの物語の中で、子どもに愛の告白をする。うそのない関係を築くための下地づくりになります」



里親と暮らすことで、子どもにはどんな変化が訪れるのでしょうか。

「親に愛されている、という自信が表情を変化させるのでしょう。どんどんかわいくなって、毎回、驚かされます」と山上さん。

機関紙「あたらしいふれあい」での不定期連載「週末里親体験談」が好評
公益社団法人家庭養護促進協会
ソーシャルワーカーの山上有紀さん

しをしています。特に相談の多い「養子縁組里親」について、ソーシャルワーカーの山上有紀さんに伺いました。

「最初、自分にできるのか不安を持って相談に見えますが、大切なのは、その子の背景にある事情を含めて100%受けとめる気持ちがあるかどうかという点です。家庭訪問では、里親希望者自身はどう育てられ、それをどう感じていたのかまで話していただきます。その方の人生を振り返る、いい機会にもなっているように思います」

里親決定後の面会は、親も子も一歩ドキドキするようです。

「『前の日は寝られなかった』という里親さんもいらっしゃいます。子どもの方も、自分に大きな変化が起きることはわかっています。その上で少しワクワクしながら待っています」

また、子どもにも真剣に向き合う里親も、これまでとは次元の違う幸せを感じています。養子縁組里親のお二人に話を聞きました。

Aさんは、6歳の女の子と、1歳の男の子の里親です。「主人からの提案でしたが、『お腹を痛めていない子を愛せるのか』3年悩んだ末の決断でした。最初は、親の愛情を試すような行動もありましたが、一緒に暮らしていくうち笑うツボが似てきたり(笑)、5年目の今では『あれ、血がながってなかったっけ?』と思うくらい本当の親子になりました」

血縁がないからこそ、相手により注意を払い、小さな思いやりに感謝できる関係が築けるのかもしれない。

また、Sさんは、1歳の女の子の里親になってまだ4ヶ月。「夫婦二人だけの時より、人生が濃厚になったし、成長させてもらっています。また、想いを共有できる里親同士のネットワークは、里親だから得られた財産です」

「おじさん」「おばさん」になる

一方、「週末里親」とは、月1〜2回、週末や長期休暇の時に引き取り、家庭生活を体験させるボランティアです。土曜日の朝に施設へ迎えに行き、日曜日の夜に施設へ送り届けるのが標準的なスケジュール。

山上さんはご自身でも、週末里親をしています。専門職として厳しい目線で里親にアドバイスをしていたものの、いざ自分が引き受けるとなると最初は、手探り状態だったとか。しかし「宅急便でリングが届いたのを見て『なぜ(宅急便の)おじさんはリングくれたの?』と聞いてきたり『有紀ちゃんの家の風呂にはフタがあるね』と驚いたり(施設の大浴場にフタがない)。何でもないことでも、家庭生活の体験になっているのだと思うと肩の力が抜けた」

週末里親を続けて3年。当初と変わったことは?

「先日、写真を整理していたら、来たばかりの頃、緊張した顔で正座している写真があり懐かしく思いました。今

週末里親スナップ

施設では飼えないペットとふれあう

気付けば、すっかりリラックス

ゴシゴシ、お風呂掃除のお手伝い

亡くなった飼い犬も忘れない優しい子

は、ゴロ寝でテレビを見ている(笑)」

ほかにも、正月の親戚の集まりやペットとのふれあいなど、施設の生活ではできない体験を重ねています。また、一緒に絵を描いたり「妖怪ウォッチ」の映画を観に行ったり、山上さんも子どもの世界を楽しんでいます。

「月1回の関わりを重ねていくなかで、私が大事にしていることや想いが、少しでも子どもに残っていくといいなと思っています」。

大阪市内には、児童養護施設などで暮らす子どもが約1200人います。週末里親で誰かの特別な「おじさん」「おばさん」になってみませんか?

問 公益社団法人 家庭養護促進協会
東高津町12-10
大阪府立社会福祉センター210号室
6762-5239
里親制度全般について
大阪市子ども相談センター
中央区森ノ宮中央1-17-5
4301-3156

目次			
●クローズアップ天王寺	2	●保健衛生	4
▶うそのない関係だからほんとうの親子になる		●子育て情報	5
●お知らせ	3	●イベント情報	6
		●特集 地域包括ケアシステムの構築を旨として	7
		●わがまち天王寺	8
		●おおさか掲示板	9
		●天王寺区 食育展/木下大サーカス	12